

英語科学習指導案

単元名「Program7 Research on Australia」〔学指要領：領(4)イ，知工(イ) e(a)，思ウ〕

令和7年〇月〇日 (〇) 第〇校時 〇〇教室
 〇〇立〇〇中学校 1年〇組 〇名 指導者 〇〇 〇〇
 T2 〇〇 〇〇
 ALT 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・There is[are]～. やhowの疑問文の意味や働き、文構造を理解し、□□町を紹介する活動において、それらを正しく用いて、おすすめのスポットに関する情報やその理由、自分の思いを伝え合うことができる。	・1学期末の紹介活動では、多くの生徒がbe動詞や一般動詞、canを正しく使って自分のことを伝えることができた。一方で、be動詞の疑問文では、doを用いて答えたり、疑問詞を用いた疑問文では、疑問詞の後の語順を混同したりする生徒もいる。
思考力、判断力、表現力等	・交流事業で□□町に滞在したアメリカの学生が、また□□町を訪れてくれるよう、おすすめのスポットに関する情報や、その理由、自分の思いを、既習表現を適切に用いて話すことができる。	・教師や友達に自分のことを分かってもらうため、伝えたいことがある生徒は多い。また、その単元で学習した表現は適切に用いることができるが、これまでの既習表現を想起できず、日本語を用いる生徒もいる。
学びに向かう力、人間性等	・交流事業で□□町に滞在したアメリカの学生が、また□□町を訪れてくれるよう、おすすめのスポットに関する情報や、その理由、自分の思いを、既習表現を適切に用いて話そうとする。	・教師や友達に自分のことを伝える場面では、生徒同士で練習したり、教師やALTに聞いてもらったり、ICTで録音したりして、正確な英文や発音で伝えようとしていた。

2 評価規準

知識・技能	○There is[are]～. やhowの疑問文の意味や働き、文構造を理解している。 ○There is[are]～. やhowの疑問文を用いて、地域にある場所やものや、そこまでの行き方について伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	○交流事業で□□町に滞在したアメリカの学生が、また□□町を訪れてくれるよう、おすすめスポットに関する情報やその理由、自分の思いを整理し、既習表現を用いてまとまりのある内容を話している。
主体的に学習に取り組む態度	○交流事業で□□町に滞在したアメリカの学生が、また□□町を訪れてくれるよう、おすすめスポットに関する情報やその理由、自分の思いを整理し、既習表現を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。

3 指導及び評価の計画 ※別紙参照

4 言語活動の価値

1学期に町にホームステイをしたアメリカの学生に向けて、町のおすすめのスポットを紹介する言語活動は、紹介したいスポットに関する情報やおすすめの理由、自分の思い等、複数の伝えたいことを相手により伝わるように整理してまとまりのある内容を話す力の育成につながる。また、町の交流事業で一度交流した相手に伝えるため、明確な相手意識を持って、町を紹介する活動に自分事として取り組むことができる。町にある場所やもの、その場所までの行き方等の情報を伝え合う際に、There is[are]～. の文やHow can we get to～? We[You] can get there by～. の文等の新出言語材料だけでなく、in (場所) やfrom (場所) 等の前置詞を用いた語句や様子や状態を表す形容詞、canを用いた文といった既習表現を用いることができる。また、アメリカの学生に向けての紹介に至るまでに、友達や教師、ALTとの対話を繰り返すことで、他者が用いる英語や話す内容を参考にしながら、自身の紹介文をよりよいものとするだけでなく、聞き手を意識した発表をする力を伸ばすことができる。

II 本時の学習 (3/8)

1 ねらい 教科書の本文の内容や表現を参考に、町のおすすめスポットを伝え合う活動を通して、There is [are]~.の文を正しく用いることができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される生徒の意識 [S]</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目 (観点)</p>
<p>1 Warm up (5分) 2 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p><めあて> 町のおすすめスポットについて、友達や先生に伝えよう。</p> <p>S:町の自然を気に入ってる学生がいるから、自然を楽しめる場所にしようかな。友達はどんな場所をおすすめするのか。</p>	<p>○伝える目的や相手を意識して、本時の学習を進められるように、第1時で紹介したアメリカの学生のアンケート回答をモニターに提示し、本時はどのようなことを伝え合うか問いかける。</p> <p>○本時の学習の見通しを持つことができるように、めあてを達成するための学習の進め方を問いかける。</p> <p>○紹介する場所について必要に応じてより詳しい情報を得られるように、□□町についてのパンフレットや地図、学習用端末を用意しておく。</p>
<p>2 教科書の本文を参考に、町のおすすめスポットを友達や教師、ALT と伝え合う。(35分)</p> <p>① 教科書の本文を読む。</p> <p>S:There is[are]~.を使って何があるのかを伝えられそう。オペラハウスやクオッカがどういうものか伝えていいることも参考にできそうだな。</p> <p>② 町のおすすめスポットを伝え合う。</p> <p>S:試しの活動で伝えた場所も自然が楽しめる場所だからもう一度伝えようかな。自分が知らない場所について話している友達もいるな。</p> <p>S:自然が好きなアメリカの学生だったら、友達が紹介した場所はすごく良いと思う。もっと詳しく教えてほしいな。</p> <p>S:「その場所にはたくさんのテントがある」って言いたいけれど、似たような表現が教科書にあるな。There are a lot of tents.で大丈夫かな。</p> <p>S:キャンプの他に BBQ ができるのだったな。You can ~.を使えばできることを伝えよう。</p> <p>S:友達は、It is a popular place.って言ってたな。私は「楽しいところだよ」って伝えてみようかな。</p> <p>S:好きな理由を伝えている友達もいるな。それを伝えると興味を持ってもらえるかも。</p> <p>S: There is a good place in □□. This is (名称). There are a lot of tents. You can enjoy camping and BBQ. It's very exciting.</p>	<p>○There is[are]~.の使用場面や紹介する場所やものについての説明に気付くことができるように、教科書の本文で紹介の際に参考にできそうなところについて問いかける。</p> <p>○伝える内容を再検討できるように、「試しの活動」の際に作成したメモを用いて伝え合うよう促す。</p> <p>○発話の機会を確保するとともに、様々な紹介の内容や表現方法について知ることができるように、グループの友達と伝え合った後は、他のグループの友達と伝え合う機会を設ける。</p> <p>○話し手が伝える目的や場面、相手の状況に応じた紹介ができるように、聞き手はアメリカの学生になったつもりで応答するよう促す。</p> <p>○正確な英文で伝えることができるように、a の欠落や複数のを伝える際に、There are ~s.が使えていない等の生徒の発話に間違いが多い場合には、全体での口頭練習の機会を設け、板書する。</p> <p>○正確に英文が発話できている生徒には、場所の詳細を伝えることができるように、What can we do there? What's ~?等問いかける。</p> <p>◆評価項目 (知○) 友達と伝え合う場面において、「□□町のおすすめスポットについて、There is [are]~.の文を正しく用いて伝えることができているか」を評価する。</p>
<p>3 本時の学習の振り返りをする。(5分)</p> <p>S:町のおすすめスポットについて伝えられるようになった。いろいろな友達や先生たちと話すうちに、There is[are]~.の文の使い方が分かってきた。</p>	<p>○学びを自覚し、次時の学習の見通しを持てるように、本時の取組を称賛し、「どのようにできるようになったか」「何ができるようになりたいか」の視点で振り返るよう促す。</p>
<p><振り返り></p> <p>S:自分の家の近くにあるスポットをおすすめしようと思い、教科書に「有名な場所がある」という表現があったので、参考にして伝えた。「テントがたくさんある」は There are a lot of tents.と間違えずに言うことができた。「~の近くにある」「10分くらいで行ける」と言いたかったが表現が分からなかったなので、次はこのような情報も伝えられるようになりたい。</p>	

(別紙)

3 指導及び評価の計画 (全8時間: 本時第3時)

※指導に生かす評価○ 評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・ホームステイアンケートの回答を基に単元の課題を設定し、「試しの活動」を通して単元の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">単元の課題 交換留学で□□町に滞在したアメリカの学生が、また□□町を訪れてくれるように、観光大使になって、町のおすすめスポットを紹介しよう。</div>		○	○
2	・ There is[are]～.の用法を捉え、教科書本文 (Part1) の概要を把握する。	○		
3	・ 教科書の本文 (Part 1) の内容や表現を参考に、町のおすすめスポットを伝え合う。	○		
4	・ how の疑問文の用法を捉え、自宅から学校や町のおすすめスポットまでの行き方についてやり取りする。	○		
5	・ 教科書の本文 (Part 2) の概要を把握し、内容や表現を参考にしながら、町のおすすめスポットやもの、おすすめの原因や自分の思いについてアイデアマップを基に伝え合う。		○	○
6	・ 町のおすすめスポットについての詳しい情報や、おすすめの原因や自分の思いを整理し、伝え合う。(動画撮影①)	●	●	●
7	・ 友達やALT の助言を基に、紹介の内容や表現を修正し、紹介し合う。	○	○	○
8	・ 町のおすすめスポットを紹介し、単元の学習を振り返る。(動画撮影②)	●	●	●

※○は、単位時間のねらいに即して、生徒の活動状況を見取る際の重点を示している。「ねらいに即して指導に生かす評価を行う」と記載することも考えられる (「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」参照)。